

日本語のノダに類する文末談話標識の通言語的研究：
「思考プロセス」の観点からのアプローチ
(平成26年度第1回研究会)

日時： 平成26年5月24日(土曜日)(午前9時より午後6時半まで)
25日(日曜日)(午前9時より午後3時半まで)

場所： AA研 302号室

報告者名： 角田三枝(AA研共同研究員 立正大学非常勤講師)

2014年度 第1回 研究会報告

参加者(8名)： 梅谷博之、大塚行誠、桐生和幸、児倉徳和、千田俊太郎、角田太作、
星泉、角田三枝

<研究会の内容>

調査結果見直し① 大塚行誠(ビルマ語)

ビルマ語における前回の調査結果を再度検討した結果を述べた。

調査結果見直し② 児倉徳和(シベ語)

シベ語における前回の調査結果を再度検討した結果を述べた。

調査結果見直し③ 千田俊太郎(朝鮮語)

朝鮮語における前回の調査結果を再度検討した結果を述べた。

調査結果見直し④ 梅谷博之(モンゴル語)

モンゴル語における前回の調査結果を再度検討した結果を述べた。

今後の調査研究に向けて ディスカッション①

今後の研究、および研究発表の方向性について検討し、全員でディスカッションを行った。

調査結果見直し⑤ 桐生和幸(ネワール語)

ネワール語における前回の調査結果を再度検討した結果を述べた。

調査結果見直し⑥ 星泉（カム・チベット語）

カム・チベット語における前回の調査結果を再度検討した結果を述べた。

今後の調査研究に向けて ディスカッション②

来年度の調査結果報告についての具体的な計画について全員でディスカッションを行った。

コンピュータ上のデータの管理（児倉徳和）

各言語におけるノダ文に相当する文末標識の用法の調査結果、および用法をまとめ、それをメンバー間で共有するために、児倉徳和が中心になって、千田俊太郎の助力も得ながら、エバーノート、グーグルスプレッドシートなどの準備を行っている。その使用方法について説明を行い、今後の方針を検討した。

<今回の研究会の成果>

昨年度、漫画による調査票を作成し、その共通の調査票を用いて、各言語の調査を行った。今回は、前回の研究会までの第一回目の調査発表において充分検討できなかった事柄を含め、再度調査結果を見直し、分析を行った。今回は、6つの言語について、調査結果を見直した。調査結果の見直しにあたっては、角田三枝が前回の調査結果の発表後に、それぞれの言語の調査結果を検討してまとめた質問、コメントなども考察の材料とした。

それぞれの言語において、ノダに類する文末談話標識の特徴的な表れ方、特有の用法があることが前回の報告でもわかっているため、調査結果をより綿密に検討することにより、個々の言語の特徴がより明確になりつつある。これからも、個々の言語の特徴、特に思考プロセスがどのようにかわるかをさらに解明してゆく方針である。

コンピュータ上での調査結果の整理、共有のための準備も進展しつつある。